

【中学校・交流に関わる体験活動】

本物の感動体験と交流を目指した，長野県豊丘村での勤労体験学習  
静岡県富士市立吉原第三中学校

— 学 校 の 概 要 —

学校規模

学級数：9学級

生徒数：307人

教職員数：20人

体験活動の観点からみた学校環境

昭和60年度から17年間継続し，本校の教育活動に定着している。

地域や保護者の体験学習に寄せる期待が大きく，PTAや地域を含めた交流に発展している。

本校PTAのOBやPTA会員で「豊友会」を組織し，豊丘村では，受け入れ農家を中心に「ふじ友の会」を組織し，勤労体験学習を側面から支援している。

豊丘村役場の交流センターが窓口となり，豊丘村農協との連携の下に，受入れの準備等の体制が整えられている。

連絡先

〒417-0847

静岡県富士市比奈2126番地

電話：0545-34-0868

FAX：0545-34-0869

ホームページ：

<http://www.fuji-szo.ed.jp/yoshiwaradaisan-j/>

電子メール：

jp-yoshihara3@city.fuji.shizuoka.jp

— 体 験 活 動 の 概 要 —

活動のねらい

勤労の尊さや意義を理解する

人と人とのかかわりを学ぶ

自ら考え判断し行動する「生きる力」

を培う

主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

勤労体験学習に向け，教科，道徳，特別活動と連動した横断的な学習

国語(2時間)社会(4時間)

音楽(2時間)道徳(2時間)

特別活動(6時間)

勤労体験学習(特別活動で18時間)

手紙や電話による豊丘村との交流

PTA主催による親子りんご収穫体験

体制等の工夫

校務分掌に豊丘担当を設置

PTA組織に豊丘担当部を設置

活動の成果等

正しい職業観や勤労観が身に付いた。

人間的な触れ合いの喜びを味わった。

公衆道徳等，様々なマナーを学習。

「総合的な学習の時間」の課題再発見の場とすることができた。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ア 体験を通して、勤労の尊さや意義を理解し、正しい勤労観や職業観を身に付け、将来の社会人としての生き方を理解させる。
- イ 生徒に自分の住む地域と違った社会や人々と直接ふれさせることにより、社会や人と人とのかかわりを学び、自己を見つめ直す機会とする。
- ウ 集団生活のきまり、公衆道徳、他家を訪問する様々なマナーについて、望ましい経験を積み、協力してよりよい生活習慣を身に付けようとする自主的・実践的な態度を養う。
- エ 計画の段階から生徒の主体性を生かした実践活動を進める中で、自ら考え判断し行動できる、「生きる力」を身に付けさせる。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称	長野県豊丘村勤労体験学習	イ 実施学年	第2学年
ウ 活 動 内 容			
	教 師 の 活 動	生 徒 の 活 動	
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関・農家との連絡</li> <li>・農家別班名簿の送付</li> <li>・事故防止対策の検討</li> <li>・事前打ち合わせ会</li> <li>・事前の保護者会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤労体験学習に向けた実行委員会を組織</li> <li>・勤労体験学習発足式</li> <li>・勤労体験学習に向けた事前学習</li> <li>・事前学習のまとめの発表会</li> <li>・お願いの手紙作成</li> </ul>	
当日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各農家で生徒と共に作業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊丘村での勤労体験学習 各農家に3～6名でホームステイをし、りんごの摘花作業を中心とした農作業に従事する</li> </ul>	
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家のアンケート集約</li> <li>・事後の反省会</li> <li>・PTA主催親子りんご収穫体験の協力</li> <li>・収穫体験の反省会と次年度の受け入れのお願い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後のまとめの学習</li> <li>・お礼の手紙並びに農家別の新聞の作成と発送</li> <li>・手紙や電話による交流</li> <li>・PTA主催親子りんご収穫体験への参加</li> <li>・豊丘村から寄贈されたりんごの木の観察と管理</li> <li>・体験を学校や家庭・地域の活動に生かしていく</li> </ul>	
エ 教育課程への位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動として実施(18時間)</li> <li>・各教科、道徳、特別活動と連動した横断的な学習(16時間)</li> </ul>		
オ 勤労体験にかかわる年間行事と実施時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月……勤労体験学習事前打ち合わせ会</li> <li>・5月上旬…長野県豊丘村での勤労体験学習(2泊3日)</li> <li>・6月上旬…勤労体験学習反省会</li> <li>・11月中旬…PTA主催親子りんご収穫体験</li> <li>・12月中旬…収穫体験の反省会と次年度の受け入れのお願い</li> <li>・1月……次年度の勤労体験学習発足式</li> </ul>		
カ 継続の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成14年度も継続して実施</li> </ul>		

## 2 活動の実際

### (1) 事前指導

#### ア 生徒の勤労体験学習実行委員会を組織

- ・ 実行委員長、係長の選出，スローガンの決定等

#### イ 勤労体験学習発足式

- ・ 勤労体験学習に向け，目標と課題をもつ。
- ・ 先輩が残してくれた偉業をより大きくふくらませよう，活動への意欲をもつ。
- ・ 勤労体験学習に寄せる想いを発表する。
- ・ 「豊友会」の方を招き，勤労体験学習の意義や経緯について話を伺う。
- ・ 勤労体験学習のビデオを見たり，上級生からアドバイスを受けたりする。



< 「豊友会」会長さんの話を聞く >

#### ウ 勤労体験学習に向けた事前学習

##### 勤労体験学習に向けた横断的な学習

- ・ 社会科では，長野県の地形・風土・歴史・特産物・自然等について学習し，富士市との違いを理解し豊丘村についての知識を深める。国語科では，事前のお願いの手紙や礼状の書き方について学習する。音楽科では，「信濃の国」，「豊丘村歌」の学習をする。道徳では，みんなで育てた「りんご並木」の教材を扱い，自分の郷土を自分たちの手でよりよく育てていこうとする公德心について学ぶ。

##### 学級活動（実行委員会・係活動等）

- ・ スローガンの決定や，入村式，退村式の企画をする。今年度のスローガンは，「感じよう人の心の温かさ・感じ取ろう働くことの喜びを」に決定。
- ・ 豊丘村のりんごの種類や生産量，作業内容，摘花の仕方などを学習する。
- ・ 農家での過ごし方や，訪問時の礼儀やマナーについて，具体的な実践の場を設定し指導する。
- ・ 日常生活の中での自分の生活を見つめ直すとともに，場に応じた適切な言葉づかいや敬語が使えるよう指導する。

### (2) 活動の展開

#### ア 長野県下伊那郡豊丘村の各農家での勤労体験学習（2泊3日）

##### < 1日目 >

- ・ 午前8時学校発
- ・ 午後1時より，豊丘村役場で入村式を行う。入村式では，村長さんやJA組合長さんのあいさつの後，実行委員長より勤労体験学習に向けての決意を述べた。また，出迎えてくれた豊丘中の2年生と「信濃の国」を合同合唱し，交流した。
- ・ 午後1時30分より各農家へ移動し，農作業に励んだ。



< 根気のいるりんご摘花作業 >

##### < 2日目 >

- ・ 各農家で終日の農作業と家事の手伝いをした。

#### < 3日目 >

- ・ 午前中農作業に励み，午後 1 時に役場へ移動し，退村式を行った。
- ・ 退村式では，感謝の気持ちを込めて「豊丘村歌」を歌い，見送りに来ていただいた農家の方々に披露した。
- ・ 午後 5 時 30 分学校着

### (3) 事後指導

#### ア 事後のまとめの学習

勤労体験学習の感想文，礼状，農家別班新聞を作成し，各農家へ送った。

#### イ 手紙や電話等による交流

お世話になった農家の方々と文通や，電話での交流。修学旅行先から手紙を書いたり，近況報告など，折に触れて連絡を取り合ったりしている。生徒の中には，長期休業中にグループで農家を訪ね，また，家族で出向く家庭もある。

ウ 農家の方々によるアンケートを集約分析し，学年の課題を明らかにした。

エ 豊丘で学んだ体験を，事後の生活や学習に生かしている。

### 3 指導体制と家庭や地域と関係団体，関係機関との連携

#### (1) 校内指導体制

校内組織として，校務分掌に豊丘担当を位置付け，豊丘村との交流の推進を図っている。交流の窓口は教頭が担当し，具体的な推進は豊丘担当教員と 2 年部が中心となり，PTA の豊丘担当部とも連携を取り合い推進の企画や立案に当たった。

#### (2) PTA 活動との連携

PTA 組織に豊丘担当部を設置し，20 名の部員のもとで豊丘村との交流に関する行事の企画や実践に当たっている。また，豊丘村役場で行われる，事前打ち合わせ会，事後の反省会，収穫体験の反省会に，教職員と共に PTA 会長並びに豊丘担当部が参加した。

#### ア 事前打ち合わせ会（4 月下旬）

- ・ 前年度の反省を元に原案を提示し，受け入れ農家からの要望を聞き再検討した。
- ・ 特に配慮を要する生徒については，個々に生徒の状況を詳しく説明し，理解を得た。

#### イ 事後の反省会（6 月上旬）

- ・ 生徒の勤労体験学習の様子について，各農家からのアンケートを基に反省会を行った。農家の方々の率直な意見や感想を聞くことにより，新たな課題を発見することができた。

#### ウ 収穫体験の反省会（12 月中旬）

- ・ 1 年間の諸行事や交流の反省と，次年度の受け入れのお願いや日程について検討した。

#### エ 親子りんご収穫体験

- ・ 平成 10 年度より，秋の休日に PTA 主催親子りんご収穫体験を実施している。約 8 割の生徒や半数以上の保護者が参加し，りんごの収穫体験やお世話になった農家との交流を行っている。

本年度も 2 年生を中心にその保護者，職員総



< 真っ赤なりんごを収穫 >

勢135名で豊丘村を訪れた。真っ赤に実ったりんご畑を見て新たな感動を覚え、久しぶりにお世話になった農家の方々との再会を通して、生徒たちも感動的な楽しい一日を保護者や教職員と共に過ごすことができた。

### (3) 関係機関・関係団体との連携

平成7年度に、本校のPTAのOBで組織する「豊友会」が設立された。生徒の事前学習の講師や、農家への受け入れのお願い、豊丘祭りへの参加、地区の体育祭に豊丘の皆様を招待して交流を図るなど、勤労体験学習を側面から支援している。定期的に会報を発行し、その年の勤労体験学習の様子や、様々な豊丘村との交流を掲載し、地域に紹介している。

また、豊丘村でも、平成11年度に受入れの農家を中心とした「ふじ友の会」が設立され、学校、「豊友会」、「ふじ友の会」が互いに連携を取り合い、地域を巻き込んだ交流に発展している。平成12年度に、「ふじ友の会」より学校にりんごの苗木が11本贈られ、記念植樹を行った。「ふじ友の会」の指導や「豊友会」の支援を受けながら、りんごの木の観察や管理を生徒の手で行っている。

### (4) 事故防止対策と安全確保への配慮

ア 勤労体験学習用の個人カードを作成し、緊急連絡先や、生活・健康上で注意を要する内容について記載し、受け入れ農家の方へ渡す。

イ 事前打合せの折に、消防署や病院を訪ね、緊急時の応急対処を依頼しておく。

ウ 農家との事前打合せを綿密に行い、作業内容に危険が伴わないようにする。また、身体的に配慮の必要な生徒の対応について、十分な理解を得る。

エ 3日間の教師の巡回指導体制並びに連絡系統を整えておく。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 根気のいる農業体験を通して、農業に対する理解と関心を深めるとともに、勤労の尊さや意義を理解し、正しい勤労観や職業観を身に付けることができた。
- ・ 各農家の人たちと生活を共にすることにより、人とのふれあいの喜びや温かさを直接肌で感じ取ることができた。お別れ式で涙を浮かべて別れを惜しんだり、農家へ礼状を書いたり、その後の農家の人たちとの文通など、人間関係の薄れがちな生徒たちの心を揺さぶる行事となっている。
- ・ 本校の勤労体験学習は、生徒に本物の感動を与え、自分や他者を理解する意欲をを起こさせる上で大きな成果があり、本校の教育活動のすべてにその精神が生かされている。

#### < 勤労体験学習の生徒の感想より >

私は、この3日間の勤労体験学習を終えて、多くのことを知り、学びました。りんごの実のなり方、道具の使い方、昔の様子、そういうことももちろん知りましたが、私はもっとすばらしくて、大切なことを知りました。それは働くことの大切さ、それを成し遂げたときの満足感。そして、人はみな温かい心を持っていること。助け合える仲間がいることの素晴らしさ。他にもいろいろなことを学んだこの行事は、すごくいいものだったように思います。私はこれを機会に、自分自身を変えていきたいと思います。豊丘の人たちのように、広く、温かい心をもち、どんなことでも素直に受けとめられる心を養おうと思います。今からすぐにはいかなないけれど、もしも秋にもう一度豊丘にいけたら、一回り大きく成長した私を見てもらえるよう、一日一日を大切に、自分自身を伸ばす努力をしていきたいと思います。

## < 収穫体験の生徒の感想より >

何か月ぶりに訪れた豊丘村。すっかり秋の感じになって、あーもどってきたんだ！！という喜びがありました。お世話になった方々に会えたときは、うれしかったです。りんごの収穫も楽しく、あっという間に過ぎ、帰る時間となりました。別れがつらく寂しかったです。母も「豊丘村は良いところで、優しい人たちだったね。」とっていました。

## ( 2 ) 課題と今後の取組

- ・ 長年継続してこられたのは、農家の方々を含め、多くの人々の支えや理解があったからであり、そのことに感謝し、豊丘や地域の期待により応える学校づくりに励んでいかなければならない。
- ・ 反省会で出された様々な意見や指摘を謙虚に受け止め、今後の教育活動に生かしていく。
- ・ 受け入れ農家の高齢化問題が生じている。また、生徒の作業による品質低下の問題や農家にとっては一番忙しい時期に、勤労体験や収穫体験の受入れをお願いをしている。受入農家への感謝の気持ちを忘れず、受入農家や関係機関との連携をより密にしていく。
- ・ 秋の収穫体験を、PTA行事から学校行事に切り替えることが可能かどうか検討する。その際平日になるが、保護者の参加を呼び掛け、安全確保の面からの協力も依頼する。
- ・ 総合的な学習の時間のテーマを「夢・未来・かぐや姫の里～豊丘に学ぶ～」と設定し、3年間の学習を見通す中で、2年生の勤労体験学習が課題再発見のきっかけの場とし、地域と豊丘を結び、生徒が自ら課題を発見し、自ら課題を解決していく学習を展開する。1年では、自分たちの地域の学習を深め、豊丘の方々に紹介できるようにする。

### 【本事例活用に当たっての留意点】

本事例は、勤労体験活動と交流体験活動を融合させたユニークな体験活動である。静岡県富士市の中学2年生が、長野県豊丘村の農家にホームステイし、りんごの摘花作業を中心とした農作業に従事するとともに、地域の様々な人々と幅広く交流する体験である。また、りんごの収穫期をむかえる11月には、PTA主催の親子りんご収穫体験が企画されるなど地域ぐるみ、家族ぐるみの交流体験活動である。

本校のように勤労と交流を融合し、また、事前・事後の学習や活動を多彩に展開していることの中に、中学生としての交流体験活動の深まりがあると言える。地域をまたがった交流体験では、同じ中学生同士が率直に語り合ったり、協同作業をしたりする工夫も様々に考えられる。また、体験後に、自分たちの住む地域を見直したり、地域ので人間関係や交流を深めていくような教育活動につなげていくことが大切であろう。